

一隅を照らす運動総本部だより No.27



一隅を照らす運動総本部ホームページアドレス
<http://ichigu.net>



一隅を照らす運動 理事会を開催

平成24年1月16日、天台宗務庁において一隅を照らす運動理事会が開催され、平成24年度一隅を照らす運動事業計画や予算を審議し、

- 平成24年度「一隅を照らす運動」
通常会計歳入歳出予算
69,200,000円
- 平成24年度「一隅を照らす運動」
地球救援事業特別会計歳入歳出予算
32,000,000円

が承認された。

会議の冒頭で、小堀光詮会長から「昨年は東日本大震災という誠に悲惨な大災害がありました。今こそ天台宗が一丸となって、復興に向けて少しでも明るくしていければ」と挨拶があった。

また、阿純孝理事長からは「昨年は災害が多い年でした。天台宗には一隅を照らす運動があり適切な行動がすぐとれる体制があります。さらに運動が活発になっていけ



れば」との挨拶があった。

今回就任された副理事・理事・監事は次の通り。

【副理事長】

延暦寺執行・武覚超師

【理事】

延暦寺副執行・小林祖承師
 延暦寺副執行・水尾寂芳師
 神奈川教区本部長・溝江光運師
 近畿教区本部長・高岡保博師
 山形教区本部長・清原正田師
 岡山教区本部長・葉上観行師
 近畿教区神峰山寺住職・近藤眞道師

【監事】

滋賀教区長壽寺住職・長山慈信師

第26回全国一斉托鉢

平成23年12月1日、第26回天台宗全国一斉托鉢が行われ、12月の「地球救援募金強化月間」中は各教区本部を中心に戸別托鉢や街頭募金が展開された。今回も大勢の方の協力により平成24年1月20日現在で25教区本部59会場の実施報告があった。

全国での募金総額は10,014,677円で、これらの浄財から地域社会福祉向上のために地元の社会福祉協議会やNHKの歳末たすけあい運動などに届けられたほか、一隅を照らす運動総本部「地球救援事務局」に3,828,889円が寄託された。

各地の様相 (中間報告)

延暦寺一山

12月1日、比叡山麓坂本では半田孝淳天台座主猊下を先頭に延暦寺一山住職や天台宗務庁役職員など約100名が托鉢行脚。坂本界隈の戸別托鉢では463,243円の浄財が寄せられ、毎年恒例の托鉢を楽しみに待たれている人も多かった。また、延暦寺一山の寺庭婦人会の協力のもと、寺庭婦人と天台宗務庁役職員が京阪坂本駅・JR堅田駅・JR比叡山坂本駅で実施した街頭募金では、合わせて58,721円の浄財が寄せられた。

滋賀教区本部

12月1日、愛犬部の安養寺周辺で戸別托鉢を行い、住職24名が各戸を訪問。糸切餅の喜捨などもあった。寄せられた浄財147,144円を地球救援に寄託した。

京都教区本部

12月3日、住職ら27名が参加して托鉢を実施。参加者は京都市四条河原町の人混みの中、通行人に募金を呼び掛けた。また、各寺院周辺でも戸別托鉢を行い、地球救援と京都新聞社にそれぞれ211,943円を寄託。

近畿教区本部

12月10日、住職ら10名が大阪市戎橋付近で托鉢を実施。参加者は寒風吹き荒ぶる天候の中、ティッシュを配りながら「一隅を



照らす運動」について説明する班と、読経をしながら喜捨を受ける班に分かれて托鉢を行った。地球救援に80,378円、和歌山県災害対策本部に50,000円を寄託した。

兵庫教区本部



- 第二部では、12月3日に真如院・観明院周辺で住職・檀信徒ら38名が参加して戸別托鉢を実施し、地球救援に66,306円、篠山市社協に81,000円、加東市・三田市両社協に20,000円をそれぞれ寄託した。
- 第三部では、12月1日に八葉寺周辺で戸別托鉢を実施し63名が参加。地球救援に241,100円を寄託した。
- 第四部では、12月1日に山陽姫路百貨店前から姫路城まで行脚し街頭托鉢を行った。住職ら12名が参加し、集まった浄財81,473円を地球救援に寄託した。
- 第五部では、11月20日に住職・檀信徒ら14名が参加し、新温泉町対田地区で托鉢を行い、地球救援に122,000円、新温泉町社会福祉協議会に30,000円を寄託した。
- 第六部では、12月3日に托鉢を実施した。53名が5班に分かれて蓮華寺の檀信徒宅を廻った。地球救援に55,300円、東日本大震災災害対策本部に60,000円、丹波市社協に55,200円を寄託。

岡山教区本部

- 第四部では、11月30日に住職・檀信徒ら52名が参加して玉島市街で托鉢を行い、

226,292円の浄財が集まった。176,292円を地球救援に、玉島社協に50,000円を寄託。

山陰教区本部

12月1日に鳥取県の三朝町と大山町で托鉢を行い57名が参加し、地球救援に100,000円、三朝町社協に81,221円、NHK たすけあいに36,469円、大山町福祉に25,000円を寄託。

- 第三部・第四部は合同で、12月2日に松江市内で戸別托鉢を実施。部内から9名が参加し、地球救援に30,000円、NHK歳末たすけあいに36,469円を寄託した。

四国教区本部

四国教区本部は12月2日に宇和島市内商店街で街頭托鉢を行った。参加者13名がパンフレットとティッシュを配りながら募金を呼び掛けた。53,800円を地球救援に寄託。

九州東教区本部



- 第1教部では12月1日、国東市内中央部にて街頭托鉢を実施し11名が参加。地球救援に30,000円、大分新聞社歳末たすけあいに30,000円を寄託した。
- 第2教部では12月1日、部内各寺院で参拝の檀信徒に喜捨をお願いし、集まった浄財27,000円を地球救援に寄託した。
- 第3教部では12月1日、豊後高田市内で10名が参加して街頭托鉢を実施し

194,865円の浄財が集まった。地球救援に124,865円、豊後高田市交通安全協会に70,000円を寄託した。

- 第4教部では12月1日、大分市内で街頭托鉢を行い14名が参加し、集まった浄財31,862円を地球救援に寄託した。
- 第5教部では12月1日、各寺院で檀信徒を対象に托鉢を行い、地球救援に17,000円を寄託した。
- 第6教部では12月1日、各寺院で檀信徒を対象に托鉢を行い、地球救援に10,000円を寄託した。

九州西教区本部



- 久留米部では、12月9日に久留米市商店街で托鉢を行った。寒空の中で商店街の通行人も少なかったが、10名で商店街の店舗をまわった。集まった浄財38,855円を地球救援に寄託。
- 柳川部では、12月3日に参加者9名で、長壽院周辺の住宅と商店街を2班に分かれて戸別托鉢を実施。地球救援に31,580円を寄託。
- 熊本部では12月7日に宇土市商店街で戸別托鉢を実施。雨天の中住職ら9名が参加し、集まった浄財7,600円を地球救援に寄託。
- 肥前東・西部では、12月6日に合同で托鉢を行った。参加者17名が佐賀市中心部商店街を行脚し、募金を呼び掛けた。総額41,864円を地球救援に寄託。

- 対馬部では、12月13日に対馬市の比田勝商店街で托鉢を実施し、17名が参加した。地球救援に65,000円、対馬市社協に10,000円を寄託。
- 筑前部では、11月24日に東明寺周辺の商店街で托鉢を実施し、11名が参加した。地球救援に56,755円を寄託。

三岐教区本部



11月29日に福寿寺周辺を中心に托鉢を実施し、住職10名が参加した。檀信徒を中心に訪ね、好意的に協力をいただいた。集まった浄財52,467円を地球救援に寄託。

東海教区本部

12月21日に日泰寺本堂前にて托鉢を実施し、276,379円の浄財が集まった。地球救援に100,000円、仏青連盟救援委員会に126,379円、東海教区本部に50,000円を寄託。

また、第五部の吉祥院では、12月1日から7日まで托鉢を実施。期間中140名が参加し知多市八幡地区の約1,800戸を詠歌詠唱しながら行脚した。地球救援に50,000円、知多市福祉基金に500,000円、歳末たすけあいに101,509円を寄託。

北陸教区本部

11月27日に、春江観音院がある坂井市周辺で托鉢を行い24名が参加した。今年は北陸にしては珍しく穏やかな青空の下で行うことができ協力的な方が多かった。集まっ



た浄財155,600円を地球救援に寄託。

信越教区本部



- 長野部では、11月26日に信州善光寺の仁王門下にて托鉢し14名が参加した。年間を通して仏青を中心に托鉢を行ってきた。地球救援に156,003円を寄託。

神奈川教区本部

JR川崎駅の東口で12月1日に托鉢を実施。参加者37名が6班に分かれて通行人にチラシとティッシュを配布しつつ募金を呼び掛けた。また、本年も事前に各寺院へ募



金をお願いしていたため多額の浄財が集まり、地球救援に170,000円、教区救援募金に87,847円、教区仏青救援募金に100,000円を寄託した。

東京教区本部

12月10日、浅草寺宝蔵門前において52名が参加し托鉢を行った。参加者は参拝客に募金を呼び掛け、集まった浄財から地球救援に150,000円、あしなが育英会に150,000円、港区社会福祉協議会に66,007円を寄託。



169,994円を地球救援に寄託。

北総教区本部



12月1日に住職ら19名が参加して、印西市大森の長楽寺の檀信徒を中心に托鉢を実施した。前日に長楽寺住職がチラシを配布していたので待っていた檀信徒が多かった。集まった浄財と寺院住職からの浄財191,955円を地球救援に寄託。

南総教区本部

12月2日、長生郡各町村、山武市、山武郡各町村で住職ら25名参加のもと、戸別托鉢を行った。集まった浄財265,467円全額を地球救援に寄託。

埼玉教区本部

12月1日、JR川越駅とJR熊谷駅で23名が参加して托鉢を実施。雨が降り寒い中、参加者はそれぞれ街頭で通行人や買い物客に募金を呼び掛けた。集まった浄財

群馬教区本部



- 南前橋部では、12月3日に神楽寺周辺で托鉢を行った。91名が戸別に協力を呼び掛け、集まった浄財257,237円を地球救援に寄託。
- 西前橋部では、12月1日に前橋市大徳寺で部住職と檀信徒ら50名が大徳寺本堂で先祖供養ならびに東日本大震災犠牲者慰霊法要を実施し募金を行った。地球救援に100,000円、教区救援事務局に100,000円、仏教保護会に50,000円、小相木町社会福祉協議会に50,000円、上毛新聞社に33,333円を寄託。
- 北群馬部では、12月3日に67名が参加し、渋川市内で街頭托鉢を行った。集まった浄財の内、地球救援に146,383円、上毛新聞社と渋川市社協にそれぞれ100,000円を寄託。
- 下仁田部では、12月1日に12名が参加して下仁田町南牧村で戸別托鉢を行った。

集まった浄財の内、地球救援に10,000円、教区一隅へ20,000円、下仁田社協に67,700円、仏教保護会に20,000円、南牧村社協47,001円を寄託した。

- 富岡部では、地球救援に10,000円、教区一隅に20,000円を寄託。
- 北前橋部では、12月6日に善勝寺周辺で街頭托鉢と戸別托鉢を実施し、部内住職と檀信徒ら16名が参加した。集まった浄財の内、地球救援に88,622円、上毛新聞社に100,000円を寄託。
- 東前橋部では、12月1日に前橋市大胡町商店街で部内住職10名が参加して街頭托鉢を行い、集まった浄財120,000円を地球救援に寄託した。
- 伊勢崎部では、協力を呼び掛け、浄財321,400円全額を地球救援に、群馬教区災害へ100,000円を寄託。
- 桐生部では、12月4日に桐生市本町周辺で街頭托鉢を実施。住職・檀信徒ら20名が参加し、寄せられた浄財60,000円全額を地球救援に寄託した。
- 世良田部では、12月1日に托鉢を行い、地球救援に24,000円、教区一隅に6,000円を寄託した。

茨城教区本部

12月1日、住職ら6名参加のもと、下館駅前街頭托鉢を呼び掛けた。当日は小雨が降っており大変寒かったが多くの浄財が集まった。筑西市に131,782円を寄託した。

また、12月2日、第二部では住職ら15名参加のもと、千光寺周辺で戸別托鉢を呼び掛け、集まった浄財を地球救援に83,250円、教区ラオス学校建設基金に50,000円を寄託。

栃木教区本部

11月27日に岩舟町文化会館において円仁イベントで声明講演を開催し、その後托鉢をした。公演終了後に会場で募金活動を実

施し32名が参加した。195,623円もの多額の浄財が集まった。

また、12月8日には宇都宮オリオン通りで二手に分かれて、街頭托鉢を住職ら10名で行った。13,435円の浄財が集まった。

福島教区本部



第4部の龍興寺では11月30日、詠讃会・伝道師会の会員と共に会津美里町高田町内で托鉢を実施。「伝教大師讃仰のご和讃」を詠唱しながら町内各戸を巡り「忘己利他・一隅を照らす」精神の実践につとめた。地球救援と同町社協にそれぞれ46,437円を寄託した。

陸奥教区本部



11月6日に中尊寺、毛越寺、平泉駅前在住職ら32名が参加して托鉢が行われた。当日はあいにくの雨だったが多くの協力を得ることが出来た。208,015円を東日本大震災で被災した寺院に寄託した。

また、12月10日には陸奥教区仏青が中尊

寺と毛越寺境内にて雪が降るなか托鉢を行った。観光客などからあたたかい支援を頂いた。地球救援に19,317円、東日本大震災被災寺院に100,000円を寄託した。

山形教区本部



12月1日に、山形市内で68名が参加して街頭托鉢を実施。当日は寒い天候の中、商店街や各戸を廻った。東日本大震災復興支援に277,158円を寄託した。

平成23年度支部活動助成支部

一隅を照らす運動総本部では、平成19年度から宗祖大師のお言葉「己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」の精神で社会奉仕活動を永年にわたり実践する支部を奨励し助成を行っています。平成23年度の助成支部は以下の通り。

滋賀教区本部

華開寺支部（藤支良明支部長）

- 事業名：華開寺境内とその周辺清掃活動
- 活動年数：34年
- 該当事業：清掃奉仕
- 日時：平成23年8月6日（土）
8時～11時45分
- 場所：滋賀県大津市仰木
- 人数：寺族3名、檀徒28名
- 要旨：毎月ご詠歌の習礼などでお世話になっているご本尊の阿弥陀如来様に

感謝し、盂蘭盆会において、お精霊様を迎えるため、各自が清掃道具を持ち寄り、各班に分かれ、境内、築山、門前、客殿、裏庭、お地藏様周辺、華開寺周辺の地域を清掃する。



近畿教区本部

玄英寺支部（小林慈享支部長）



- 事業名：墓地清掃
- 活動年数：30年
- 該当事業：清掃奉仕
- 日時：平成23年8月1日（日）
6時～10時
- 場所：和歌山県紀の川市貴志町上野山
- 人数：寺族2名、檀徒30名
- 要旨：毎年春の彼岸前とお盆前の年二回、檀家総出で墓地清掃を行っている。この日は朝早くから寺へ集い、木の伐採や剪定など、墓地の清掃を中心に周辺の美化活動も行っている。

山陰教区本部

大雲院支部（田尻光照支部長）

- 事業名：地藏盆子供夜店
- 活動年数：26年
- 該当事業：教育
- 日時：平成23年8月23日（火）
18時～19時
- 場所：鳥取県鳥取市立川町
- 人数：寺族4名、一般10名
- 要旨：小学4年以上中学2年までの子どもたちに店を任せ、「子供たちに夏の一夜の思い出」を目的に境内を開放し、一隅を照らす運動の一環として活動している。売上金は全額を子供たち自身で地元施設の「子供学園」へ寄付している。

山陰教区本部

大日寺支部（見上知正支部長）

- 事業名：子供による米づくり体験
- 活動年数：3年
- 該当事業：環境保全・教育・まちづくり
- 場所：鳥取県倉吉市桜
- 人数：寺族2名、檀徒30名
- 要旨：休耕になった、田んぼを利用して田植えから精米まで、檀家の子供たちに一年を通して体験させている。収穫された米の試食、餅つきをしながら、子供とのふれあいを通して、よりよいまちづくりを行っている。

山陰教区本部

皆成院支部（清水成真支部長）

- 事業名：子ども宿泊体験
- 活動年数：12年
- 該当事業：教育・文化
- 日時：平成23年8月10日～11日
9時～15時
- 場所：鳥取県三朝町三徳
- 人数：寺2名、信徒3名、子供20名
- 要旨：小学生を対象に座禅、写経、法話などを宿泊して体験してもらうことによって、国宝的人材となる事を目的に

活動している。毎年、県外からも参加者があり大いに盛り上がっている。

山陰教区本部

興隆寺支部（市原修俊支部長）

- 事業名：山寺コンサート
- 該当事業：まちづくり・文化
- 場所：山口県山口市大字御堀
- 人数：寺族3名、檀信徒20名、一般150名
- 要旨：興隆寺で室町時代から行われていた「二月会」の復活を模索しながら、地域に根ざした活動として実施している。狂言演者、琴奏者に加え、東京芸大より雅楽の参加もあり興隆寺からの発信として、まちづくりにも貢献している。

九州東教区本部

善正寺支部（野中玄雄支部長）

- 事業名：延岡「橋の日」
- 活動年数：26年
- 該当事業：清掃奉仕・環境保全
- 日時：平成23年8月4日（木）
6時～8時
- 場所：宮崎県延岡市中央通り
- 人数：寺族3名、檀信徒100名、一般200名
- 要旨：橋、道路、河川を愛護し水辺の景色にひたり、健康増進と郷土発展の実現を願う市民行事である。本年は東日本大震災犠牲者慰霊、被災地復興祈念行事として行った。

東海教区本部

蓮増院支部（高木光基支部長）

- 事業名：一隅を照らす運動第51回八部檀信徒会
- 活動年数：51年
- 該当事業：その他(会員間の交流勉強会)
- 日時：平成23年10月23日（日）

10時～14時

- 場 所：静岡県島田市千葉
- 人 数：寺族10名、檀徒50名、信徒10名
- 要 旨：毎年10月に部内寺院を順次会場とし、各寺院代表檀信徒が出席し講師を依頼して法話を聞いて勉強会を開いている。開催会場寺院檀信徒より選抜された方が進行役を務め各寺院の近況、問題などを発表する。

神奈川教区本部

遍照寺支部（坂本圭司支部長）



- 事業名：遍照寺読経会
- 活動年数：28年
- 該当事業：教育・まちづくり
- 日 時：毎月 第一土曜日
- 場 所：神奈川県川崎市川崎区中島
- 人 数：寺族5名、檀信徒60名
- 要 旨：天台宗日常勤行義の読経、写経、法話等の布教活動を行っている。本山団体参拝を40名ほどで27年間連続で行っている。寺院に地域の多数の方々がふれあうことによって地域に深く信仰がねづいている。

東京教区本部

知行院支部（坂本観晃支部長）

- 事業名：少年野球 世田谷サムライボーイズ
- 活動年数：48年
- 該当事業：その他（スポーツ）



- 場 所：東京都世田谷区喜多見
- 人 数：一般48名
- 要 旨：少年野球チームの世田谷サムライボーイズの活動場所として、境内などを貸し出し協力している。

南総教区本部

笠森寺支部（小川長宏支部長）

- 事業名：防災奉仕活動
- 活動年数：49年
- 該当事業：清掃奉仕・環境保全・その他（災害救援）
- 日 時：平成23年4月15日
- 場 所：笠森寺境内
- 人 数：寺族2名、檀徒10名
- 要 旨：国指定重要文化財である笠森寺本堂を火災から守るために放水テストを檀信徒と行っている。

南総教区本部

長福寿寺支部（今井長新支部長）

- 事業名：仏像づくり教室



- 活動年数：12年
- 該当事業：その他（仏像彫刻）
- 場 所：千葉県長南町長南
- 人 数：檀信徒100名
- 要 旨：年105回にわたり、長福寿寺の研修室を開放し、仏像づくり教室を行っている。彫刻刀を使って仏像をつくり、開眼し本堂内で展覧会を開いている。彫る仏像は一期目が善財童子、二期目は救世観音、三期目は地藏菩薩、四期目からは好きな仏像を彫ってもらっている。

南総教区本部

萬福寺支部（奈良康信支部長）

- 事業名：萬福寺サロンいこい
- 活動年数：8年
- 該当事業：福祉
- 場 所：千葉県鴨川市天津
- 人 数：寺族3名、檀徒17名、一般5名
- 要 旨：年間26回にわたり萬福寺サロンいこいを開いて防災訓練や健康指導、交通安全指導などを行っている。また、地元の幼稚園、中学校の訪問する際には、サロンで作ったぬいぐるみや雑巾などを持参し生徒と交流を深めている。

群馬教区本部

恩行寺支部（竹村興肇支部長）

- 事業名：里山と境内整備
- 会 名称：天台宗恩常金一隅会
- 活動年数：5年
- 該当事業：清掃奉仕・環境保全
- 場 所：里山と恩行寺境内
- 人 数：寺族2名、檀徒40名
- 要 旨：多野部の恩行寺・常行院・金蔵寺の檀信徒に呼びかけ会委員を募集し、天台宗恩常金一隅会を結成した。年間行事の中には、大師会、写経会、成道会、涅槃会などがあり、日頃より活発な活動を行っている。

■一隅を照らす運動推進大会■

○北陸大会



北陸教区本部（天谷良永教区本部長）では、平成23年10月2日に越前市のJA越前たけふ農協会館を会場に、一隅を照らす運動北陸大会を開催し、檀信徒ら約350名が参加した。

開会式では、天谷教区本部長を導師に法楽があり、続いて福恵善高同運動総本部長が祝辞を述べた。

続いて記念講演では、千日回峰行者の延暦寺一山宝珠院住職藤波源信師が「暮らしの中の修行」と題して講演された。藤波師は「普段の生活の中で自分が出来ることをやる。それこそが修行であり一生続くものなのです」と自身の経験を元に分かりやすく語った。また講演後には質疑応答があり、参加者からは多くの質問が投げかけられた。

休憩をはさみ、北陸教区翠雲寺住職岩尾照尚師による馬頭琴演奏があり、天台声明の音律をアレンジした曲や、自身が以前訪れたモンゴルをイメージし作曲した「クリスタルグリーン」などの楽曲を演奏し、参加者はその音色に聞き入っていた。

最後に天谷教区本部長から福恵総本部長に東日本大震災義援金として170,425円が寄託され閉会となった。

○京都大会



京都教区本部（穴穂行弘教区本部長）では、平成23年10月18日に眞正極楽寺を会場に、一隅を照らす運動京都大会を開催し、檀信徒180名が参加した。

宗祖降誕会慶讃法要（写経会、和讃読誦）を午前中に奉修。午後より武者小路千家若宗匠師が「天台と茶の湯」と題して講演された。天台宗寺院と茶の湯の関係を武者小路千家に代々伝わる茶器を見せながら、大変わかりやすく講演された。

参加者はメモをとりながら聴衆一同、大変興味深く聞き入っていた。

○陸奥大会



陸奥教区本部（千葉亮賢教区本部長）では、平成23年10月23日に青森県平川市の平川市文化センターを会場に、一隅を照らす運動陸奥大会を開催し、檀信徒ら約600名が参加した。

開会式では、菅原光中師を導師のもと法楽があり、続いて福惠善高同運動総本部長

が祝辞を述べた。

記念講演では、黒石寺住職藤波洋香師が「人生いろいろ 娑婆世界の生き方」と題して講演された。藤波師は「今ここに生きているという幸せ、今やらないでいつやる」と東日本大震災を経験から強く思われたことを語られた。また講演中に参加者に対して質疑を投げかける一面があり、参加者と共に一体感のある講演をされていた。

休憩をはさみ、岩手県奥州市の行山流都鳥鹿踊による清興があり、参加者は迫力ある舞に見入っていた。またステージ上には、津軽伝統ねぶた絵師の八嶋龍仙師による垂れ幕が掲げられ一段と大会に花を添えていた。

最後に千葉教区本部長から福惠総本部長に地球救援募金として50万円が寄託され閉会となった。

○滋賀大会



10月25日、滋賀教区本部（長山慈信教区本部長）では米原市公民館を会場に、第15回「一隅を照らす運動」滋賀教区推進大会を檀信徒総会と併せて開催し、住職・檀信徒ら約500名が参加した。

開催に先立ち、教区役員出仕による伝教大師報恩法要と東日本大震災慰霊法要が厳修され、その後福惠善高同運動総本部長から祝辞があった。

檀信徒総会をはさみ記念講演では、東日本大震災で被災し、また世界遺産に登録さ

れた陸奥教区中尊寺山田俊和貫首が『生きる、生かされている』と題して講演され、「生きる、そして生かされているということを中心の中にとどめておくことは、この世がよくなる原点であり、一隅を照らす心である」と、自身の体験を振り返りながら語られた。

続いて、女流落語家露の団姫（つゆのまるこ）氏が、一隅を照らす精神をわかりやすく盛り込んだ創作落語『一隅を照らす落語』を披露し、ユーモアたっぷりでテンポのいい語り口に会場は大いに盛り上がった。

最後に、当日会場で集められた浄財210,263円が、滋賀教区本部から福恵善高同運動総本部長に寄託され、閉会した。

○近畿大会



近畿教区本部（高岡保博教区本部長）では、平成23年10月31日に貝塚市の水間寺を会場に、一隅を照らす運動近畿大会を開催し、檀信徒約120名が参加した。

霜月会並びに一隅を照らす運動が執り行われた。法華三昧法要のあと、延暦寺一山妙行院住職（水間寺兼務住職）梅山龍圓大僧正を講師に迎え「一隅を照らす…震災に学ぶ…」と題して講演。

天台宗の成り立ちの概略のあと、自身が若年の頃に遭遇した水害の体験談を元に、3月の東日本大震災、9月の紀伊半島台風災害について、被災された皆様の心情を共感をもって話された。結びには「一隅を照らす、之即ち国宝なり」の詞と宮沢賢治の

詩「雨ニモマケズ」を引用し、自然の恵みの有り難さと、高度に進んだ文明社会の中で、人は本来どう生きていくべきかを明確に示された。

堂外に佇み講演を聞き入る一般参拝者の姿も見られ、山内は清浄な空気に包まれた。

○茨城大会



茨城教区本部（志鳥融光教区本部長）では、平成23年11月12日、安楽寺（茨城県常総市・松永博英支部長）を会場に、第16回一隅を照らす運動茨城教区本部推進大会を開催し、住職・寺族・檀信徒ら約170名が参加した。

今大会は、前年同様「一隅を照らす人びとの集い」をテーマに実施され、始めに志鳥本部長導師のもと法楽が厳かに行われ、その後主催者である志鳥本部長の挨拶。続いて来賓の福恵善高同運動総本部長と船戸俊宏茨城教区宗議会議員より祝辞があった。

記念講演では、比叡山千日回峰行者藤波源信大阿闍梨を講師に招かれ、『千日回峰行と日々の生活』と題した法話があった。講演に先駆けて藤波師のドキュメンタリービデオ『阿闍梨が行く』が上映され、参加者は回峰行の解説と行中の藤波師の姿に釘付けになっていた。そして講演の中で藤波師は「普段の生活の中で自分が出来ることをやる。それこそが修行であり一生続くものなのです」と自身の経験を元に分かりやすく語った。

また、講演後には藤波師による力のこもったご加持があり、一人一人が真摯に有り難さを噛み締めている様子であった。

最後に、会場の松永支部長より挨拶があり、閉会となった。

茨城教区本部では、推進大会を寺門興隆の良い機会と位置づけ、教区内の寺院を会場に大会を開催している。

◎北海道大会



北海道管内本部（山口道雄管内本部長）では、平成23年11月20日に北海道釧路市の青蓮寺（桂智信住職）を会場に、一隅を照らす運動北海道大会を開催し、檀信徒ら約100名が参加した。

開会式では、山口道雄管内本部長を導師のもと法楽があり、続いて福恵善高同運動総本部長が祝辞を述べた。

記念講演では、女流落語家露の団姫（つゆのまるこ）氏が、一隅を照らす精神をわかりやすく盛り込んだ創作落語『一隅を照らす落語』と古典落語の『時うどん』を披露し、テンポのよい関西弁もあって本堂内は大きな笑いに包まれ、北海道大会は閉幕となった。

ニュース News

◎聖エジディオ共同体に支援金を贈呈

一隅を照らす運動総本部では、世界の子どもたちの福祉と教育向上を願って、毎年、



イタリアの聖エジディオ共同体を支援しており、ヨーロッパで開催される「世界宗教者平和の祈りの集い」で、代表者が支援金を贈呈している。

本年も平成23年9月10日から14日まで、聖エジディオ共同体が主催する「第25回世界宗教者平和の祈りの集い」がドイツのミュンヘンで開催された。

12日には、今回の「第25回世界宗教者平和の祈りの集い」天台宗代表使節団団長を務めた栢木寛照団長が、ミュンヘンのシティセンターホールで「大震災における宗教者の役割」についてスピーチをした後、聖エジディオ共同体のアグスティノー・ジョバンニョーリ教授に共同体活動支援金として30万円を手渡した

◎「みんなのとしょかん」に協力支援金を贈呈



一隅を照らす運動総本部では、平成23年9月14日に一般社団法人みんなのとしょかん代表川端秀明氏に協力支援金200万円を贈呈した。

『みんなのとしょかん』プロジェクトと

は被災された方々のために図書館を仮設住宅の集会所などに設置している一般社団法人。今回は、宮城県東松島市と亘理町の仮設住宅に設置されている『みんなのとしょかん』を視察した。集会所の一部屋を『みんなのとしょかん』スペースとして活用し、書棚にはマンガから小説、絵本、図鑑など幅広いジャンルの本が並べられていた。小さい子供からお年寄りまで気軽に借りられる図書館であった。図書は寄付による物が多数。募集などの詳細は下記にご連絡下さい。

ユニ・スタッフ

栃木県足利市芳町26

TEL. 0284-40-3070

<http://niccora.jp/minnanotoshokan/>

◎台風12号災害支援義援金を寄託



平成23年9月22日、一隅を照らす運動総本部は9月に発生した台風12号の災害支援として、被害の大きかった三重県、奈良県、和歌山県を訪問し、各県庁へ緊急救援引当金から義援金を寄託した。

三重県庁へは福恵善高総本部長と地元三重県の森喜良三岐教区本部長が赴き、青木正晴健康福祉部総括室長と面談し、青木室長に総本部からの義援金30万円と三岐教区本部からの義援金10万円が寄託され、今回の台風による被災状況の説明を受けた。

次に訪れた奈良県庁には、福恵総本部長と高岡保博近畿教区本部長が赴き、応対された稲山一八奈良県副知事に総本部からの

義援金30万円と近畿教区本部からの義援金5万円が寄託された。稲山副知事からは台風が通過した当日の様子や復興状況などの説明があった。

最後に訪れた和歌山県庁には福恵総本部長と高岡近畿教区本部長が米山重明和歌山県庁会計管理者と面談し、総本部からの義援金30万円と近畿教区本部からの義援金5万円が寄託された。

各県とも今回の台風による激しい風雨により、今までに経験したことがない規模の被害が出ており、復旧にはかなりの時間がかかると見方が強まっている。今後の迅速な災害対策が求められている。

◎第11回 一隅を照らす運動公開講座を天台宗務庁で開催

一隅を照らす運動総本部では、公開講座を平成23年10月31日に天台宗務庁で開催した。第11回となるこの度の公開講座では、女流落語家露の団姫（つゆのまるこ）氏を迎え、ひろく一般から約250名の参加者が集まった。

講演では、露の氏と太神楽曲芸師の豊来家大治朗（ほうらいやだいじろう）氏による寄席が行われた。露の氏は古典落語と一隅を照らす精神をわかりやすく盛り込んだ創作落語『一隅を照らす落語』を披露し、露の氏のユーモアたっぷりでテンポのいい語り口に会場は笑顔が溢れていた。

また豊来屋氏は『太神楽』を披露し、普段なかなか見ることのない曲芸の迫力に会



場は大いに盛り上がった。

また、第2部では司会の植月百枝氏と鼎談の時間がもたれ、参加者の様々な質問に対して丁寧に答えられた。

◎NHKに一斉托鉢浄財を寄託

平成23年12月8日、総本部ではNHK歳



末たすけあいと海外たすけあいへ義援金を寄託した。

当日は、NHK天津放送局から辻田和則局長らが来庁し、阿純孝一隅を照らす運動理事長、武覚超同運動副理事長がそれぞれ義援金を手渡した。歳末たすけあいには、同月1日に比叡山麓坂本で行われた「天台宗全国一斉托鉢」の浄財463,243円が、海外たすけあいには地球救援事務局から100万円が寄託された。

また、寄託式には延暦寺幼稚園から竹林幸祥園長先生と、園児と保護者6名も出席し、秋に行われたバザーの収益金を、園児達から辻田局長に手渡された。

辻田局長は「東日本大震災を始め、苦しんでいる方々に、有効に使わせていただきます」と述べた。

◎三千院門跡が寒行托鉢の浄財を寄託

平成23年12月26日、三千院門跡の大島亮幸執事長が天台宗務庁に来庁し、地球救援募金として100万円を総本部に手渡した。この浄財は、天台宗全国一斉托鉢の一環として同門跡で実施している寒行托鉢で寄せられた浄財。

托鉢当日は、朝から小堀光詮門主を先頭に法螺貝を合図として三千院山門を出発。僧侶や職員などが、地元大原の約700戸をまわり、玄関先で般若心経を唱えてい



った。玄関先に浄財が置かれている家もあり、この托鉢が実施されてから二十数年が経過し、寒行托鉢が大原の地で定着している様子が伺える。

◎比叡山高校宗内生が托鉢の浄財を寄託



平成24年1月17日、比叡山高校宗内生2名と教員1名が天台宗務庁に来庁。昨年12月13日に比叡山麓天津市仰木地区で行った寒行托鉢の浄財68,510円を、地球救援募金として福惠善高一隅を照らす運動総本部長に手渡した。

この托鉢は同高校宗内生の実践仏教の一環として毎年12月に行われているもので、黒素絹に草鞋、網代笠姿の装束を整え、班に分かれて法螺貝を吹きながら家々を行脚した。玄関先では般若心経を唱えて家内安全などを祈願した。